

東北を一巡して

徳田生

宮城縣

内務省の某課長は、宮城縣の道路は悪いと評してゐるが、それは三年前のことであつて、今日の宮城縣の道路状態を知らないからであると、湯澤知事は辯解してゐる。成る程縣下到る所に御城下道路と云うて、急角度の屈曲が二重三重に重つてゐて、近年急速度を以て發達せる高速度交通機關の交通には甚だ不向きな所もある。が路面は相當に手入れが行届いて特に悪いと云ふ程ではない。現在同縣で執行しつゝある土木工事の主なるものは、將に完成に近づいてゐる鹽釜の築港と、六號國道に於ける工費六十萬圓の阿武隈川橋の新設、四號國道に於ける工費二十萬圓の名取橋及工費十五萬圓の白石橋の架換工事である。現在計畫中のも

のに在りては、松島から鹽釜を経て七里ヶ濱の景勝地に達する延長五里に亘る沿海道路を、豫算金三十萬圓の失業救濟事業として改修せんとするもの及明治四十三年の災害當時の架換にかかり、今正に頽齡に達してゐる國府縣道の橋梁三十七ヶ所の改築である。宮城縣は財政困難とは云ひながらも、鹽釜築港の埋立に依る土地財源が豊富だから、今一時起債をしても一朝景氣の恢復を見るときは、二百萬や三百萬圓の負債は直ちに償還しても猶餘りがあると、川越土木課長は樂觀してゐた。尙同縣土木課では、縣下石越驛鹿島臺驛、新田の各停車場線に就き、道路の改修前と改修後に於ける玄米一俵の馬車運賃を比較調査したところが、石越驛に於ては十八錢が六錢、鹿島臺驛に於ては三十

錢が十五錢、新田驛に於ては二十八錢が十六錢に何れも二分の一乃至三分の一に減じた。此の計算を基礎として縣下の主要荷物たる肥料・米・木炭・木材の運搬費のみに付て、道路の改修前と改修後とを推定比較するに、一ヶ年實に百八十四萬二千圓の利益をあげ得ることになる。更に繭・蔬菜・果物・水產物等の運搬費を加ふるときは、その利益は夥しき金額に達するであらうといふことである。又同縣では失業救濟事業の一端として道路修繕用の砂利の採取を直營してゐる、その方法は仙臺市附近に於ては黃瀨川、白石町附近に於ては白石川筋に於て市町村長の證明する失業者に石油箱一個を貸與して手掘採取を爲さしめ、一定の集積場に於て石油箱一杯に對し金五錢の現金引替票を交付する方法で、少き者も十五、六杯多きは二十杯以上を採取する、十五杯で金七十五錢二十杯で金一圓也の現金を得て、彼等は喜こんで歸つて行くところを見ると、誠に手輕にして然も有効適切なる失業救濟事業であると思ふ、而して宮城縣に於ける道路砂利は縣下を平均して、坪當り十七、八圓に

當るもののが此の方法に依るときは、石油箱二百杯で約一坪となるから、此の二百杯の賃銀即ち金十圓を以て一立坪の道路砂利を得らるゝこととなる、所謂一舉兩得の策とは此のことであらう。

湯澤知事は昨年宮城縣に着任以來國府縣道の管理者として、又市町村道の監督官廳として近時著しく複雜を極める交通機關の交通に對し、道路維持修繕の責任の重且つ大なるを痛感せられ、之は獨り限りある縣、市町村の豫算にのみ委ねては置けぬ、一般に道路愛護の感念を普及し官民一致の力に俟つ外なしとして、去る九月十八日宮城縣會議事堂に町村長其他地方有志三百餘名を會同し、各町村の道路保護組合を打つて一丸する宮城縣道路保護協會を設立した。その席上に於て木村宮城縣町村長會長は、農村簡易道路政策といふ題下に道路保護組合の發達助成外十一項目について抱負を開陳せられた。その内特に傾聽に值したものは町村に於て貧民兒童に學用品を給與する代りに兒童をして平素道路修繕用の小石を集めしめ又は工事用の石材等を運

搬せしめ、學用品の代りにその對價を仕拂ひて勞働の貴重なる所以を兒童に自覺せしむこと、今一つは道路の兩側には必ず側溝を設け、之を浚ふ都度その泥土は隣地の田畠に投げ込むことにして、地主から必ず苦情が出て来て遂には訴訟沙汰となる、その時實測をして見れば必ず從來地主の侵略して居つた地積が明かになつて道路は無代價で擴張が出來るといふことである、佐々木宮城縣々會議長は所感と題して、縣費豫算の内容を説いて地方民の道路改良に対する不平を戒しめ、地方民の自發的道道路愛護を強調した。

次いで新居内務事務官は自動車専用道に就て、發達の由來及其の價値、外國の狀態と日本の現状並自動車専用道路開設についての法制上の關係等大いに新しい所を東北人に注入した、本會理事牧博士が殆んど失明に近い眼疾を冒して諸國未知しるべ、といふ題下に令息を人杖に演壇に立てられた時は満堂三百餘人實に悲壯の感に打たれた博士は身の不自由をも顧みられず極めて元氣に、道路の發達の沿革、外國の道路と日本の道路との比較から道路の改良について、

大いに博士平素の蘊蓄を傾倒せられ最後に道路修繕の必要を説いて、今日の一計、明日の十則は道路修繕の鐵則なりと結ばれた。

岩手縣

南北に縱貫する四號國道は、幅員も相當廣く延長五十里の間實に平坦砥の如く、東海道筋の國道より遙に優つてゐることも決して劣つてはゐない、只憾びらくは彼の立派な並木を、數年前道路修繕費を得んがため思ひ切つて伐採したことである、並木も餘り密生してゐる所は道路維持上却つて伐採する方が良い場合もあらうが、岩手縣に於ける伐採方法は、必要に應じての間伐ではなくて、一途に財源を得んがための亂伐であつた、従つて或る區間は一本もなく伐採し盡し、或る區間は未だに密生し過ぎてゐると思はれる程のところもある、何故區間區間の伐採をやめて全線に亘る間伐の方法を取らなかつたかと甚だ不思議に堪えないのである。

然も折角並木伐採に依つて得た二十數萬圓の財源は、全部學校の建築費に流用せられて終つた、當時の約束は年々四

萬五千圓づゝを道路修繕費に戻入れる筈だつたのに、實際は年々僅かに、二萬圓内外しか道路修繕費に戻つて來ないといふことである。他の地方でも縣財放困難の折柄、國道の並木に目を着けてゐる向もあるといふことであるが、願くは岩手縣の二の舞を踏まぬ様に深甚の御注意を希ぶ。

東西三十一里南北四十五里面積一千方百里の岩手縣は、國府縣道の延長五百七十五里にして、面積の大なる割合に府縣道の延長が渺ない、従つて町村道三千里の内の主要幹線五百里は、他府縣に於ける府縣道に相當する地位にあるを以て、之丈けは是非府縣道並に取扱はねばならぬと長谷川土木課長は心配してゐる、此の五百里的主要町村道を平均幅員二間として改修する工費總額七百五十萬圓の内、工作物の設置に要する半額即ち三百七十五萬圓を縣費より補助し、勞力費に相當する半額三百七十五萬圓を地元の負擔として、五ヶ年繼續事業として實行したいと目論んでゐる。由來岩手縣地方は一ヶ年の内約半分は、雪に悩まされてゐる所謂農閑期に當る、此の農閑期を利用する地元の勞力提

供の方法に付ては、十二三分の確信を持つてゐる模様だが、五ヶ年間に三百七十五萬圓の縣費補助の財源については甚だ以て危しいものである。

岩手縣に於て五年度に起工した土木工事は、四號國道に於ける工費三十七萬五千圓の明治橋と外に八橋工費總額百十三萬圓の改築工事と、府縣道岩泉宮古線外八線十三萬六千圓の改修工事である。隣縣宮城と同様明治四十三年の災害當時に架替へ今正に頽齡に達してゐる橋梁も少くないが、本年は災害も相當にあつたことだから所謂災害工事として適當の應急措置は講じられるだらう。

中尊寺で有名な西盤井郡平泉村から衣川村を經て前澤町に至る、延長二里の國道は明治時代に線形が悪いとか屈曲が多いとか云ふ理由で、北上川の沿岸に路線を變更し立派に改修せられた今日になつて、又元の舊道に路線の變更をしたいと甚だ虫のよい運動をしてゐる、その理由を聞くと現在國道は北上川の出水で時々交通が杜絶するからといふ、北上川の出水氾濫は今に始つたことない、元の舊道

を變更する時分から地元の人達は十分に知つて居つた筈である。今日強いて變更して欲しいといふなら、數十年來慣れ切つて居る出水氾濫で交通を杜絶する等と驚かさないで、近頃内務省が最も嫌つて居る鐵道との平面交叉を避け、交通の便利を増進したいといふ理由を附けたら如何だらうと思ふ。

青森縣

道路の状態については本誌九月號に於て、「道路改良の第一歩」として、樹井土木課長から詳細を盡されてゐるから重複の煩を避けたいと思ふ。が青森縣土木史に特筆大書すべき一事は、樹井土木課長が昨年同縣に赴任勿々、從來青森縣土木の瘤とまで云はるゝ程弊害の多かつた、出張所任せの道路修繕用砂利の購入を斷然廢止して、縣直營の砂利採取を始めたことである。此の一大改革に對しては地方の非難は勿論、部下の技師等からも忠告さへあつた程八釜しい問題であつたが、幾多の反対を断乎として斥け遂に直營採取を開始した結果は、從來に比し確實に二割餘の低減

を見ることになつた。累積豫算で從來道路一里當りの修繕費五百圓は四百圓に、減額せられても道路の修繕は從來より遙かによくなつたと、縣下到るところに好評を博してゐる。

十和田湖。湖面海拔千四百八十五尺、周圍十五里、水深一千二百三十六尺と云ふ。萬古の處女林は鬱蒼として湖邊を繞り、中山、御倉の二大半島は深く湖面に突出して三つの灣をなし。水の深さから來る紺碧は寧ろ物凄い感じがする。その位置は青森、秋田の縣境にある。元南部藩の領地に屬して居つた頃は別に境界といふ問題は起らなかつたが、明治四年慶藩置縣の事行はれてから以來、隣縣秋田との間に屢々問題の起つたこともあるが、元來湖畔の地積は國有林に屬してゐるから、直接の利害關係が薄かつたため今日まで之が解決を必要としなかつた所、最近十和田湖が日本八景の一、國立公園候補地として朝野の間に宣傳せらるゝに及んで、急にこの問題も頭を擡げて來たとのことである。

争してゐる、青森縣に於ては青森市より湖畔に直通する工費三十萬圓の道路改修を計畫し、又弘前より十和田湖に達する自動車専用道路の出願もある、秋田縣に於ては既に發佳峰を擴築して自動車の交通に便し、亦稗方秋田縣知事は、發佳峰の頂上から見て始めて十和田湖の眞の勝景が味へると、大いに秋田縣の開發に努めてゐる。

秋田縣

財政困難のためか多年道路を甚だ閑却して居つたかの感がある、たま／＼數年前橋梁の改築を計畫し起債の許可を得て金まで借入れたところ、設計に手間取つてゐる間にかりた金は何時の間にか他に流用せられて、いよいよ仕事に着手しようとした時は最早金はないとなつた、所謂秋田縣の歳入缺陷二百六十萬圓といふ、昭和聖代には一寸珍らしい問題もあつて、一時工事の着手も危まれたが、前菊地知事に於て財政は整理せられ、片桐土木課長の手で設計を完成し最近工事に着手したものは、十號國道に於ける工費二十萬圓の由利橋改築工事である、近く工事に着手せんとする

ものに五號國道に於て工費四十五萬圓の玉川橋と工費十五萬圓の蛇の崎橋がある。

他府縣に於ては明治四十年代の架設に係る木橋は凡て腐朽頽廢、交通危險なりとして盛んに架替へ中であるのに、秋田縣では、經年既に四十餘年に及ぶといふ十號國道雄物川に架る延長百八十間の新川橋を始めとして、國道橋のみにてもカンフル注射に依つて、辛じて今日一日はといふ様な瀕死の状態にある大小十數橋を見た、稗方知事から府縣道以下に至つては尙甚しいもののその數を知らずと聞いて不覺戦慄した、道路に於ても橋梁と同様路面全く枯衰して、自動車の交通には堪え得られないところが少くない、某新聞から秋田縣の酷道險道の名稱を附せられたのも亦故なきにあらずだ、豫算の關係で砂利の少いのも止むを得ないと御察しするが、修路工夫の講習でも開催して路端の雑草を剪除して排水をよくする方法を教へたら、今少しく路面の床掘位は防ぎ得るではなからうか。